
ボクはねこ

虎波男女子 ㊄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクはねこ

【コード】

N0851D

【作者名】

虎波男子 ミ

【あらすじ】

天満市場界隈に住んでいる子猫ちゃんの目から見た、天満界隈のお話・・・ということぞ。

第1話

言うておくけど、ぼく“はねこ”ちゃいますえ。

ぼくは生まれて3ヶ月になりました。でも黒い毛皮のママと一緒に
おでかけしています。ぼくが住んでいるのは天満市場とかいうに
ぎやかな市場の近所のおうちに居候しています。

居候先の人が首輪をしてくれました。人間の世界じゃ首輪される
ことで征服されたように感じる人もいるけど、わんちゃんとかねこ
にとつてが首を守る大事なアイテムなんだよ。

夜中におでかけして、ごはんを食べさせてくれるおばさんに会う
のが楽しみ。おばさんにとつては生き物の命の大事さを知っている
んだろうね。でもご近所に「ネコにえさをやらないでください」っ
て看板もあるものね。

今日はぼくたち親子に声をかけてきた人がいた。どうみても男の
人なんだけど、どことなく女の人の匂いがするんだなあ。

でもママが「ああいうタイプはネコを抱きたいだけだから、ちかづ
いちゃだめよ」だつて。

男の人で女の人の匂いがする人と会った場所で、僕そっくりの毛
皮を着たネコがいました。ママはなんにもいわないけど、おじさん
がぼくのパパなのかなあ。いつもぼくたちのことをじっとみつめて
いるんだ。

第2話

今年の夏に新潟のほうで大きな地震があったけど、あまり大丈夫・
・・どころの話じゃないみたいなのね。

天満市場界隈では震度1とかいう揺れだったんだけど、ボクには虫唾が走るような不思議な感触があったんだ。どうしようと思っていたら、ママが「いいこと、ここは安全だからじっとしていなさい」
・・・ってことで、お店の店先のベンチの下でじっとしていたんだ。猫は以外に平気だったんだけど、じっとしている人間にはしっかり感じたらしいんだ。この文章を書いているおばさんも、自動車を止めていてしっかきゆれを感じたらしい。でも多少のことでは驚かないのが大阪のおばさん方なんだって。よくわからないけど。

まだ見たことないんだけど、^{なます}鯰というお魚は地震を感じる神経が優れているんだって。だから鯰が地震を起こす・・・って思われていたときもあるらしいけど。鯰が暴れるより、この文章を書いているおばさんが、尻餅をついた方がかなり揺れるとおもっただけだなあ。

昔は天満市場でも鯰を売っていたらしいけど、いまはお魚屋さんは海のお魚しか置いていないものね。

人間は地震を予知する能力が低い・・・ということはなかったんだ。ただ人間の脳細胞とかいうからだの中身が、地震とか災害を予知する部分が退化してしまったのかもしれないんだって。

阪神淡路大地震のときから天満に住んでいる、三毛ばあちゃんはやほど怖かったんだって。今でも「あのときはコタツの中でじっとしているしかできなかったわ」なんだって。

その日は夕方になって近い地震があったけど、人間は本当に地震を予知できる能力を取り戻せるのかなあ。

第3話

ご近所にボクたちの集まる場所がある。

なんでも今年の春まではお店があつた場所なんだけど、廃業したとかで空き家になってしまったんだって。でも次の家主がなかなか決まらないらしいので、ボクたちの集会所になつていているんだ。

猫の会議・・・って集まっているだけ、あいつとこいつは元気だな・・・というのを確認するって人間には言われているんだけど、実際は人間に聞かれない音波で会話をしているだよ。猫が嫌いな人にとっては、腰が抜けて鼻水を噴出すほどビツクリするらしいけどね。

長老さまはエツちゃんって名前の雌猫だけど、人間の年齢だと80歳になるんだ。エツちゃんの子供も人間だと45歳、ただ雄だったのがおちんちんを切られて、日々 化が進行しているんだけどね。エツちゃんの子供は今みーなちゃんって呼ばれているんだ。おちんちんを切られただけじゃ、おっぱいが大きくならないのに、みーなちゃんは雌猫に負けないほどのおっぱいの持ち主だったりするんだ。

長老さまはえらそうにするタイプじゃないけど、しっかり諫めるときは諫めるといふんだって。

長老さまは足腰が弱ってきたので、集会所に寝泊りしているんだって。みーなちゃんが長老様さまのご飯を用意しているんだけど、空き家が空き家じゃなくなったときはどうするのかなあ。この問題も検討議題で上程されているけど、まさしく猫の会議でなかなか答えがでないんだって（をいをい）。

ボクもパパとママのお世話をする事になるのかなあ。

第4話

ボクが住んでいる天満池田町の横には、天神橋筋商店街があります。

南北に2.6km、600軒の店舗が並ぶ日本一長い商店街なんだって。昼間はエンジンのある乗り物は走れないんだけど、自転車が暴走・・・乗っている人にとってはゆっくりだけど、猫にとってはゆっくりでもないの、天神橋筋4丁目〜6丁目までは昼間はできるだけ出歩かないようにしているんだ。

さて天神橋筋という町名は8丁目までしかないんだ。アーケードがあるのも6丁目までなんだけど、それでも「十丁目筋商店街」っておじいさん・おばあさんに呼ばれているんだって。じゃ9丁目と10丁目・・・となると新淀川の河川敷まで商店街を伸ばせば9丁目と10丁目ができそうだけどね。

猫にとっては、はるかに遠くなるんだけど、大阪城ってお城なるものがあるんだって。大阪城から見て南北に走る通りを1丁目として、天神橋筋商店街が1丁目から10番目だから10丁目筋だとして、長老猫のエツおばあちゃんが言っていたんだ。どこから数えるかといえば、谷町筋から北につながっている天満橋筋から1・2・3・・・と数えて、10番目だから10丁目筋・・・って、この話を書いているおばさんが苦労して探しあてたらしいんだ。

天六の交差点・・・まで行かなくても、商店街を北に歩いていった前のおさひ銀行の角で曲がると地下鉄の天神橋筋六丁目駅があるんだ・・・と言っても乗ることはないけどねえ。

そもそもは阪急・・・の前身の新京阪が、当時としてはD級のターミナルを建てたんだって。本当は京阪電車の北浜のある天神橋まで路線を延ばしたかったらしいけど、用地買収ができなかったんだ

って。そのために天神橋筋六丁目という駅名だけが残ったんだけど。まあ大阪の人は何でも短くする呼ぶのが得意だから、天神橋筋六丁目がてんろくで、谷町9丁目がたにきゅう、上本町6丁目がうえろく。ここらへんまではいいけど、日本橋1丁目はにっぽんいちなんだって、市バスとかいう乗り物の車内アナウンスも「にっぽんいち」なんだけど、なにが日本一なんかよくわからないけどね。

今日も自転車に気をつけながらお散歩をしようっと。

第5話

天満の街というと、大阪天満宮の地元ということになるんだって。7月23日はギャルみこし、24日が宵宮で、25日が本宮ということ、街中が祭り一色で賑わうんだ。でも猫はお神輿の邪魔になつてはいけない・・・ってこともないんだけど、お神輿のコースでないところか、涼しい日陰でゆっくりお昼寝をするんだよ。

この話を書いているおばさんは、服部天神宮に御参りするらしい。服部天神宮はサッカーの神様だから・・・ということなんだけど、お参りする以前に毎日ウオーキングしたほうが、沢山ある体重が減つていいと思うんだけどね。こちらのほうは夏祭りは8月24・25日なんだって。

どっちが古いの??というと、服部天神宮のほうが古いといえは古いんだ。

帰化人集団「秦氏」が允恭天皇の御世（412年 - 453年）に織部司に任じられたつて言つても日本史の教科書にも載つていないかもね。織部司つてお仕事は織物・染物をつかさどつたんだそうだけど、言つたら国营企業・・・というわけでもないみたい。服部界隈を服部連の本拠とした際、外来神の少彦名命（医薬の神）を祀つたのが始まりなんだつて。この頃はまだ、小さな祠だったといふんだけど確かに古いようなんだにやあ。

783年（延暦2年）というから相等昔の話だけど、藤原魚名つてエライ人は大宰府に左遷され筑紫国へ向かつたものの、服部にたどり着いて死んでしまつたんだ。祠の近くに葬られて、「川辺左大臣藤原魚名公の墓」が今も服部天神宮境内に残つているんだつて。残っているけど、天神宮の敷地内にある建物の中にあるので気がつかないかもね。

約100年後の延喜元年（901年）・・・つてかなり大雑把な

100年だと思っただけ。菅原道真公が魚名と同様、大宰権帥として左遷され任地へ赴く途中、当地で持病の脚気に襲われ動けなくなっただけ。そこで里人の勧めるまま、路傍の祠と魚名を祀る五輪塔に平癒を祈念したら、たちまち健康を取り戻し、任地である大宰府へ辿り着けた・・・と服部天神宮の由来には書いてあるんだ。

大阪天満宮はというと、645年の大化のを受けて、白雉元年（六五〇）に、孝徳天皇は難波長柄豊碇宮（中央区法円坂）に遷都された・・・。ちょうど阪神高速道路東大阪線の南側にナニワ飲み屋・・・じゃない難波宮があるけど、正式名称は難波長柄豊碇宮って長いんだねえ。都への四方からの進入路上って東北・南東・南西・西北の4隅なんだけど、難波宮自体東西南北にびったりではないにしても、四角い敷地だったから場所の特定はしやすかったかもね。

「八衢比古神・八衢比売神・久那斗神」の三神を饗応し（つてえらい難しい漢字だネエ）、「鬼魅」が都に入るのを防ぐ道饗祭が行われたんだって。西北の場所は特に大事に祭るように・・・ってことで、念入りに祭られた・・・って文字の記録が残るだけだけどね。難波宮から別の場所に遷都された後に、北の道饗祭の地には大將軍社が創祀された・・・これが天満の地に神社ができた謂れなんだって。

延喜元年（901年）に菅原道真公が大將軍社に参詣したのは確かだけど、903年に道真公がお亡くなりになってからは、いわゆる天神信仰がはじまって、945年に大將軍社の前に7本の松が生え、靈光を放ったという奇譚が都に伝わったって書いているけど、まさか大きな松の木が突如生えたのかなあ。梅の木は道真公を追っかけて大宰府まで飛んでいくからありえるかもね。当時の村上天皇の勅命によって天満宮を建立させたのが大阪天満宮の始まり・・・ってこれだけ書いたら次回作できるかなあ。

ところで、東淀川区に“淡路”と“菅原”って地名があるけど、

これも道真公に由来する名前って知っています？？

大宰府への道中で船に乗って今の東淀川区淡路あたりが三角州になっていて、てっきり淡路島に着いたと思ったんだって。よくよく調べるとまだ大阪だったというオチなんだけどね。菅原はそのまんなま苗字から由来というところかな。

どうしてここまで書くのかって？？？、天神さまの紋は梅鉢だけど、猫の前足に似ているでしょ。みなこママは猫の足跡を梅鉢って言うんだって。道真公も本当は猫ちゃんが好きだったのかもね。

第6話

みなさんあけましておめでとございます。

といつても、僕達猫には新年という概念がないんだよね。

死という概念もないけど。もっとも新年は冥土のたびの一里塚だけだね。

ボクがうるちよろしているJR天満駅北側だけど、正月はそれほど賑やかでもないんだな。ぷらら天満の小売市場では31日までガツツ！って感じでおじさん&おばさん&おにいちゃん&おねえちゃん&仕事しているけど、悲しいかな天満まで出向いて買い物をする人は多いのかなあ。

この話をかいているおばさんはおばさんのママと一緒に、ぷらら天満に行ったけど、おばさんのママはすっかりスーパーマーケットでの買い物ばっかだったので、久しぶりに市場の活気を体験できた・・・と喜んでいらしいけどね。

干支には猫が無い。

ネズミの策略で日にちを間違えて教えられて以来、猫はネズミを追い掛け回す・・・っていうけど。ネズミくん達の動きが、猫の琴線に触れる動きなんだよね。だから追い掛け回していた・・・と長老猫から聞くけど、今はネズミを追いかけなくても食料は確保できるものね。逆にねずみくんに反撃を喰らったほうが怖いんですけどね。

でも、この冬は世間一般で言われる暖冬なのかな??それなら多少弱っている仲間も春を迎えることができるんですけどね。

しかし、子供さんでいきなり尻尾をつかむ子が多いんですよ。尻尾を触られるのは猫にとっては嫌な事なんですけど・・・なかなかわかってくれません。

といいつつも、ことしも元気で生きていかないかね。

第6話（後書き）

・・・とねごちゃんからの正月のメッセージでした。

第7話

夏目漱石先生の「我輩は猫である」の猫さんは、どこで生まれたかわからないってことだけど。ボクは生まれた場所はちゃんと知っているんだ。

いまでこそ野良猫という肩書きだけど、都会で野良という場所が無いのに野良猫というのは変な肩書きだなあ。自由猫って呼んでくれる人もいるけどね。ただ自由民主党のセイジカとかいう人ほど、野良猫呼ばわりしてくれますが【本当】。党名に自由がついているのに変だなあ。よほど猫が嫌いなのかな。その昔東条英機という猫好きの政治家（軍人でもあるか）がいたんだけどね【本当】。

それはともかくボクが生まれた場所は、天満の古びた文化住宅の1階。人間のおばあちゃんが一人で住む部屋の押入れの中だったんだ。文化住宅の中でもそのおばあちゃんこだけは、ボクたちを追い払うことなく一緒に住まわせてくれたんだ。で、追っ払ううちには、しっかりウンチとオシッコと抜け毛で報復していたけどね（つてをいをい）。

ママのはなしだと、ボクが生まれるときは難産だったらしい。おばあちゃんが産婆ではないけど、出産を介添えした・・・つまり引っ張り出してくれたわけ【本当】。

それ以降ママと一緒ににおばあちゃんにお世話になっていたんだ。おばあちゃんもネンキンとかいうものしか収入無いけど、それでもしっかりご飯をたべさせてくれたんだよ。

でも、今は僕の生まれた場所は誰も住んでいないんだ。おばあちゃんも足腰が悪くなって老人ホームに入ることになって、それ以降

おばあちゃんとは会っていない。でも今度あえるときに元気にあいたい・・・と思っているんだ。

その8 猫の日スペシャル

・・・今日が猫の日なんだって。
だからって、猫に特典がある日でもないんだけどね。

にーにーだから2月22日とか、にゃ〜にゃ〜にゃ〜にゃ〜
だからとか言うけど、「ニヤン(2)ニヤン(2)ニヤン(2)ニヤン(2)」
の語呂合せってことで、英文学者の柳瀬尚紀さんらによる「猫の日
制定委員会」が1987(昭和62)年に制定。ペットフード工業
会が主催なんだそうで、全国の愛猫家からの公募でこの日に決まっ
た・・・んだって。本来なら猫の意見も聞くべきところだけど、残
念ながら反映されなかつたみたい。

猫の声って「にゃんにゃん」でもあり「にゃ〜にゃ〜にゃ〜」でも
聞こえるけど、猫と言う名前がついたのは「ねうねう」となく動物
だから猫って名づけられたらしい。でもあまり「ねうねう」となく
猫はいないような気がする。虎波みなこ シとこのみなこママは「
あうん、あうん」とすこし年季がはいつた雌猫の鳴き方をするけど、
みなこママは実際に猫を飼っていたから良く知っているらしい。

猫同士で話していることって、実際に人間が聞いたらゾ〜ゾ〜っ
とするかも。猫とお話できたら楽しい・・・と思っておられるかも
しれないけど、悪いことはいわれないから止めといたほうがいいよ。
今の話題は「いかにして人間から政権奪取するか」だものね。
それとは関係なく、赤ちゃんとお年寄りには話が通じるみたい。
そろそろみなこママも、猫と会話できるようになるかもね。

でも虎波みなこ シは、毎年このネタを使いまわしするのかな？
？

中書きその1

全国の『ボクはねこ』ファンの皆様こん*は。

小説を掲載しているサイトでありますところの、『小説家になるう』に久しぶりにアクセスしてみたなら、今日2008年5月6日で73日も次の話をUPしていなかったんですね……。第8話猫の日スペシャルが2月22日でしたものね。

ということは、『ぼくはねこ』も新しい話を書いていないわけです。こちらは3月9日以来……。ですから。まだまだ新聞連載の小説家になるのは……。遠井吾郎……。ではなく遠い道のりのようです。(遠井吾郎さんの名前を知っている人は、昔からプロ野球をよく見ていた人でしょうね。というかラインバック選手が交通事故で神様のもとに召されて……。20年目になるんですものね。でも誕生日は同じなのね。あたしとラインバック選手<13歳……。ということは一回り+1違うのね。

神様のもと……。って書いたからではないですが、『地獄八景亡者の戯れ外伝』のほうは結構話は作りやすいんです。その次は「悪の10時かあ??」ですね。この二本は勝手に世界観を作って……。というか片方は本当に世界征服なんですけどね。『ボクはねこ』と『ぼくはねこ』は、今は家にわんことにゃんこがないので、一緒にいたときの話とか人から聞いた話にて構成しています。にゃんこのほうは……。ジャスコシティ大日&鶴見のペットショップでお値段を見たら……。0が一つ多かったのです。

肝心の『ボクはねこ』ですね。本当は今日書いても良かったんです。あまりにも暑くなく晴れて、猫ちゃんたちも行動しやすい日な

んですよね。今日の大阪上空のお天気。できれば今日の夕方を見届けてから……と思いましたが、今のところ中書きのみをUPしますね。……といいつつ、明日からみなこママことエツちゃんと一緒に東京旅行に行きますので、帰ってからの執筆になりそうです。また73日も空ける……ということはないでしょうけど。

遅い……にも関わらず、読みきりですが初めてのラブコメ？も書くことにしました。題名だけは決まっています。『象のみいみ』……モデルは元嫁だったりします（つてええんかいな）。5月中にUPできればいいんですが、できるかなあ……。。

今回のUPはニヤンコの家からではなく、つばさのお城内「かやく体裁研究所」からのUPでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0851d/>

ボクはねこ

2010年10月15日00時19分発行